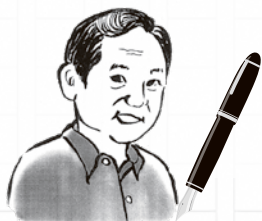


2月12日、将棋の藤井聡太さんは王将戦7番勝負で現王将に勝利し、その冠を獲得し五冠となりました。19歳6ヶ月での5タイトル保持は最年少であり、史上4人目だそうです。残りのタイトルに対し、さらに進化し、謙虚に上を目指すことにより最大八冠達成も見えてきました。

北京の冬季オリンピックでは日本選手の活躍が連日伝えられ、メダル獲得では男子ジャンプの小林陵侑選手が日本選手金メダル第1号となりました。テレビ解説によると、6歳の時より練習を始め、世界を相手に戦い続け、挫折、スランプを繰り返し、また一つ強くなって、まるで別惑星の人間のようにと報じられました。

スノーボード男子ハーフパイプでは、平野歩夢選手が圧倒的なエアで金メダルを獲得し、世代交代を印象付けました。カーリング女子では一旦はメダル獲得が厳しい状況でしたが、奮戦の甲斐もあり、決勝に進出することができました。結果は銀メダルとなりましたが、その影には5人目の選手、石崎琴美さんの存在があり、チームをバックアップすることの大切さを証明しました。また、3月4日からのパラリンピックでは、埼玉県出身の村岡桃佳選手が、アルパンスキーで金メダル3個、銀メダル1個、計4個のメダルを獲得しました。この北京2022オリンピック・パラリンピックで誕生した多くのメダリストはもちろん、惜しくもメダル獲得を達成できなかった選手からも、深い感動をいただくとともに、今まで精進してきたことに称賛の拍手を送りました。

町長エッセイ



松本恒夫